

の開始は秋のうちには始める予定ですが、本格化するのは来年に入ってからでしょう。

興福寺回廊の調査

この夏までの調査成果を受けて、中金堂院の回廊部分についても、来年早々に調査する予定です。これまで調査の及んでいない西面回廊をあけます。調査面積は狭いものとなるでしょう。

(平城宮跡発掘調査部)

(飛鳥藤原地区)

藤原京左京七条一坊西南坪の調査

橿原市営住宅建設工事に伴う事前調査。敷地約5000m²について、4月から6月、7月から9月の二度にわけて調査する予定。場所は藤原宮に南接した東西大路（六条大路）と宮中央正面の南北大路（朱雀大路）に面した「一等地」にあたります。立地からして、正史に名を残す「有名人」の邸宅跡発見が期待されます。

石神遺跡の調査

1986年から行ってきた調査の継続。昨年度の第13次調査で検出した掘立柱塀と石組大溝からなる遺跡の北限施設の東延長部分を追求する学術調査。対象約600m²。7月から9月。

藤原宮大極殿院東回廊地区の調査

昨年まで行ってきた大極殿・朝堂院地区の調査をより内側に展開。昭和10年代の日本古文化研究所の調査の再検討もあります。対象約2000m²。10月から来年3月までの予定。

藤原宮南面大垣・内堀・外堀の調査

近世溜池高所寺池の改修工事に伴う事前調査。高所寺池改修工事に伴う調査は昨年からの継続。今年は堤北辺～東辺北半について。対象約2000m²。10月から来年1月までの予定。

藤原宮東方官衙地区の調査

橿原市道拡張と河川改修に伴う事前調査。調査予定面積160m²。10月調査予定。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)

いて力点をおいた話を踏まえ、発掘調査の経営、実際、保存整備の現状、遺構、遺物の保存科学的処理法、出土遺物の整理法から報告書作成にいたるまでの個別事例を交えて、講義が進められました。

アンケート調査の結果、概ね好評であったが、遺跡保存と文化財保護法についての講義は特に人気がありました。

また、飛鳥・藤原地域の遺跡保存整備状況を各自自転車で訪ね、発掘調査から保存整備状況を実感できたのも好評でしたが、見学箇所が少し多すぎて消化しきれない研修生もいたようです。今後の検討課題としたい。

(埋蔵文化財センター)

秋篠宮同妃両殿下奈文研視察



お出迎えを受ける両殿下

秋篠宮同妃両殿下は5月21日（月）、奈良文化財研究所を訪問され、渡邊理事長、町田所長、長谷川文化庁文化財部長のお出迎えの後、平城京の説明や、年輪年代法に代表される木材の年代測定法などの説明を受けられました。

両殿下はまず、平城宮跡資料館にお入りになり、町田所長から古代の奈良の様子について説明を受けられました。

その後、樹木の年輪による年代測定法の研究が行われている埋蔵文化財センター古環境研究室では、



平城宮跡資料館で説明を受けられる両殿下

文化財関係研修の実施

埋蔵文化財担当事務職員一般研修

『埋蔵文化財基礎課程』終了

新世紀になって、平成13年度研修事業の第一弾として、5月8日から5月16日の日程で、事務職員を対象とした基礎研修をおこないました。

研修生は、北は北海道から南は熊本県にいたる総勢21名の参加でした。

研修の内容は、先ず遺跡保存と文化財保護法につ

光谷室長から年輪年代法の内容や計測方法などが説明され、殿下は興味深く説明を受けられていた様子でした。

(管理課)

第2回平城宮跡ぶらりウォーク開催



解説ボランティアから説明を受ける参加者

4月15日（日）奈文研主催で、平城宮跡解説ボランティアとともに散策する「第2回平城宮跡ぶらりウォーク」を開催しました。約100名の参加者は青空の下、4.5人のグループに分かれ、ボランティアの案内で1キロ四方にわたる平城宮跡を一周して、広大な自然と歴史ロマンを満喫しました。

これは、平城宮跡の魅力を多くの人に知ってもらうことや、平成11年度から実施している平城宮跡解説ボランティア事業をより積極的に推進する目的で、昨年12月に引き続いて企画したものです。参加者は「解説してもらうことで、当時の様子を想像しながら散策できて楽しかった」「見晴らしがよくて気持ちがいい」など一様に、平城宮跡の自然と歴史の重さに感動した様子でした。

次回は秋に開催しますので、9月頃に参加者の募集をする予定です。

(文化財情報課)

文化財情報の公開及び見学情報

(飛鳥資料館)

春期特別展「遺跡を探る」

・会期 5月15日～7月1日

・開館時間 9：00～16：30（入館は16：00まで）

地中に埋もれた遺跡の有無、あるいはその大きさや性格を、掘り起こすことなしに推定することは、遺跡の保護、調査に携わる者にとっては、基本的な作業といえます。学術的調査を行おうとす

るにしても、土地開発に対応する事前調査を計画するにしても、まず地下の遺跡を把握する必要があるからです。このために、研究者が、対象となる土地の上をくまなく歩き回って、特徴的な地形や、地表に散った遺物の破片の分布などを調べるとか、崖面や掘削工事であらわされた地層を観察するといったやり方が行われてきました。

物理機器を用いた地中探査は、こうした従来の遺跡確認の手法を補い、さらに確実なものとする手段として研究がすすめられ、実際に応用されるようになったものです。探査の結果は発掘調査地区を設定したり、発掘の期間や費用の目安をたてたりするのに役立ちます。今回の特展では、普通は目にすることのない、大地比抵抗測定装置、磁気探査機、地中レーダーなどの遺跡探査機器の実物を展示、その作動原理を解説するとともに、写真やパネルやグラフを用いて様々な遺跡への実際の応用例を展示します。地中探査技術と考古学のかかわりに、いささかでも興味と関心とをもっていただければ幸いです。



電気探査

(第88回公開講演会)

・日時 6月16日（土）13：30～

・場所 平城宮跡資料館講堂

・定員 先着200名

「復原された東院庭園隅楼」箱崎和久

「よみがえる浄土世界－阿弥陀浄土院の発掘－」

清野孝之

※聴講無料

(現地説明会)

○興福寺中金堂発掘調査

・日時 6月17日（日）13：30～

・場所 奈良市登大路町興福寺境内

○藤原京左京七条一坊西南坪（橿原市営住宅建設）発掘調査

・日時 6月30日（土）13：30～